

会 議 録

1 会議名

平成29年度 第1回上越市食育推進会議

2 議事（公開・非公開の別）

- （1）第3次上越市食育推進計画及びアクションプランについて（公開）
- （2）平成29年度食育推進関連事業概要について（公開）
- （3）意見交換（公開）

3 開催日時

平成29年7月3日（月）午後1時30分から午後3時

4 開催場所

上越文化会館 大会議室

5 傍聴人の数

0名

6 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：高橋慶一、野口孝則、井上智代、池嶋聖也、品田やよい、藤田芽美子、
小林毅夫、井上智子、岩井文弘、松田光代、山崎喜代子、小林小枝子、
尾崎徹、平澤栄一、津島けい子、武田昌子、笹川玲子、梅田みどり、
桃澤靖
- ・事務局：農村振興課 古澤課長、沢田副課長、伊藤係長、北山主任
健康づくり推進課春日上席保健師長、保育課橋本副課長、農政課栗和田副課長、
教育総務課本間副課長、社会教育課山本係長

7 発言の内容

(1) 開会

農村振興課伊藤係長：ただ今から、平成29年度第1回上越市食育推進会議を開催いたします。本日、司会を務めます事務局の農村振興課・伊藤です。よろしくお願いいたします。

平成29年4月1日付の人事異動に伴いまして、委員の交代がありましたのでご紹介させていただきます。

- ・新潟県立高田北城高等学校長 池嶋 聖也 委員
- ・上越市立いたくら保育園長 藤田 芽美子 委員

- ・えちご上越農業協同組合営農生活部生活課課長補佐 小林 小枝子 委員
- ・上越市教育委員会教育部長 柳澤 祐人 委員

以上の4名です。任期につきましては、前任の残任期間となります。それでは、新たに委員になられた4名の方に名簿順に自己紹介をお願いいたします。

《3名の委員自己紹介。柳澤委員欠席》

それでは、開会に先立ち、会長からご挨拶を頂戴したいと思います。高橋会長、お願いいたします。

高橋会長： 皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

食育基本法、上越市食育推進計画が施行され、かなりの年月が経過しました。食育の基本に立ち返り、具体的な成果を上げていく、また、本来期待されていることは何かを考え、継続的に取り組みを進めていく時期になっています。

本日の会議が実りの多いものとなりますよう、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。よろしく申し上げます。

伊藤係長： 高橋会長、ありがとうございました。

それでは議事に入ります。これより先は、会議規則第2条第1項の規定により、会長が議長を務めることとなっておりますので、高橋会長よろしく申し上げます。

(2) 議事 第3次上越市食育推進計画及びアクションプランについて（公開）

沢田副課長： 《第3次上越市食育推進計画、アクションプランにより説明》

高橋会長： この会議はいろいろな分野の方が集まっています。それぞれのホームグラウンド、背景の中から関連することについてご意見をいただきたいと思います。

野口委員： 第3次食育推進計画、アクションプランは、充実したものを作ることができました。この計画ができあがったことをどのような形で、どのような方々に周知したのでしょうか。関係各団体は多数あり、計画の関係する部分を伝えていって、協力を仰ぐのであれば、この数か月の間に、具体的な取り組み内容を伝えることができたのでしょうか。

事務局： 計画が完成次第、市のホームページに掲載をしました。また、現在、計画の概要版を5,000部作成する準備をしています。完成次第、食育の指導に活かしてもらうため、保育園や学校、食育フォーラム等で配布を行います。周知が足りない

所ではあると思いますが、この辺についてもご意見をいただきたいと思います。

高橋会長： 市役所の多くの部署が関係していますが、担当者間で打ち合わせ等は進んでいるのでしょうか。

事務局： 関係課には人事で任命された食育担当がいます。5月11日に庁内食育担当者会議を行い、食育推進計画と今年度の取り組みについて確認を行い、本日の会議についても事前に内容の確認を行っています。

野口委員： 関係課を通じて、そこから早めに現場につなげる。市民にはホームページのアクセスは難しいと思います。計画の概要版を作成することは喜ばしいことです。連携すべき対象はすでに頭に入っていると思うので、過去10年の実績を踏まえて、引き続き、市民が関係課と協力して、市民主体型の上越市の取り組みを目に見える形にしてほしいと思います。見せるサポートをしてもらうと、取り組みが実践できていることが分かります。

高橋会長： 計画の概要版は、配られても見ないものです。この概要版を材料に討論・議論してほしい。議論しないと、いろいろな人に染みこんでいかない。食材供給者や給食調理員など、食育の現場にあたる人に伝わっていきません。そういったことを市役所でやっていくことが必要であると思います。

品田委員： 上越市に学校教育研究会という組織があり、昨年一昨年と家庭科部会の部長をしていて、食育はとても大切だと感じています。部会の中では、食育推進計画やアクションプランも紹介しました。研修会はずっと食育で取り組んでいます。

昨年、県の家庭科部会の研修会が上越市であり、食育をテーマに実践発表を行いました。また、昨年は名立区の宝田小学校を会場に、JAと共同で行っている梅や名立の食材を使った取り組みの実践発表を聞きました。食育はそれぞれの立場でPRしていけばいいと思います。

高橋委員： 今回の取り組みは、若い人をねらいしたもので、その方向性にあった興味深い活動であると思います。このように、お互いに実践したこと、これからすることなどを集めていって、提示し合うことが重要であると思います。

平澤委員： 生産者です。ヤギを飼っていて、小学校にヤギの貸付を行っています。小学生と関わる機会が多くあり、発達障害を持っている子どもがいることを知りました。寄生虫の研究者である藤田紘一郎さんは、発達障害は、食が関係しているの

ではないかと言っています。また、最近では、洗剤を使って手や体を洗い、身についたものは雑菌であると考えられる傾向にありますが、雑菌も必要であると言っています。また、農薬であるネオニコチロイドも発達障害に影響しているのではないかと仮説を立てています。

ごはんとうま汁を中心とした食事を食べることが大切だと思います。これにこだわって強気に押していきたいと思っています。

高橋委員： 発達障害については、ハイリスクな食事、栄養が関係しているのではないかとの研究があります。

(3) 議事 平成29年度食育推進関連事業概要について（公開）

沢田副課長： 《資料1、アクションプランを基に説明》

岩井委員： 共食について、今の社会の現状を踏まえて意見を述べます。あくまで、食育は家庭を中心に行うものと考えます。今の家庭は、核家族化が進み、共働きが増えている中で、子どもにきちんとした時間にきちんとした食事を与えられない家庭もあります。経済的な理由で食べられないケースも増えてきているように思います。それを補うものとして、「基本方針3 食育推進体制の整備と情報を共有できる環境づくりの推進」がこれから大切になってくるのではないのでしょうか。上越市全体を考えると、いろいろな催しや機会がありますが、共食の機会はどの程度あるのか教えてください。

また、農村振興課が先頭に立って、共食の機会を設けることはありますか。私としては、いろいろな場を設けて、高齢者が寂しく食事をする、子どもが満足に夕食を食べられないという状況をなくさなくてはいけないと思っています。

事務局： 高齢者に対しては、高齢者支援課が中心となって行っている事業があります。

高齢者ケアプランの中では、ケアマネージャーが低栄養の防止の観点からプランを作成しています。また、平成28年度から、市内28の地域自治区で、地域ふれあい支援事業の通いの場として、「すこやかサロン」を設けていて、その中で、歯科衛生士による噛むことの指導や体重・握力のチェックを行い、筋力低下を予防しています。地域によっては、お昼を共に食べる場所もあるようです。ただ、どのくらいの方が参加しているかは把握していません。

子どもたちの共食については、南本町小学校区に子ども食堂があります。こちらでも実績がありません。子どもの貧困については、市のこども課が中心となって話を進めていく予定です。実績については、資料をまとめて、後日委員の皆様にお送りします。

井上智代委員： 今ほど、低栄養という言葉が出ましたが、体重が少ないという視点か、体重があっても貧血がある、アルブミンという血液のデータが低いという視点か、どの辺りを言っていますか。

事務局： 現在、体重の減少と貧血で判断しています。また、お話をする中で、食事の内容を確認しています。

高橋会長： 医療の現場でも、高齢者の低栄養は問題になっています。栄養と運動の不足で、筋肉量が減少し、運動能力がなくなり、免疫力も低下します。高齢者がひ弱になってしまうので、医療の立場からも高齢者に、活動的な生活を送ってもらいたいと思っています。

品田委員： 低栄養の逆も小学生の中で増えています。血液検査では、高脂血症、中性脂肪の子どもが20人中5・6人います。きちんとした時間にきちんとした食事を取らず、ジャンクフードなど、子どもの好きなものを与えています。この現状を見ると、学校給食の役割が大きいと感じます。上越市では、よい食材を使うなど、学校給食に配慮してもらっています。試食会などで、保護者に食の大切さを周知しています。小学校からの食育は、親子ともども大切です。偏食を直すのは、小学生の給食から。1年生は野菜嫌いの子供が多いですが、時間をかけて、学校なら食べられることもあります。義務教育における食育の大切さを感じます。

高橋会長： 肥満の人が多くなっています。20代から40代で100キロ超がめずらしくありません。食習慣が本質的におかしくなっていて、そのまま大人になり、説明しても、言っていることが通じないことがあります。本人も医者も苦労しています。

野菜嫌いでも、自分が作ったもの、調理したものは食べられる例があります。そういうことを広くやっていくことが、もっとも重要な中核的な事業でないかと思います。

(4) 議事 意見交換（公開）

高橋会長： それでは、残った時間を使いまして、全体に対する意見交換を行います。

「高齢者に対する食育の推進」「地域での共食」「食品ロス削減についての啓発」について、特に取り上げて定義をしていますが、この点に重点をおいて皆さんのご意見を伺います。

梅田委員： 野菜を中心とした料理教室をしています。子どもを対象とした謙信KIDSの講座も5年前からやっています。生徒は小学2年生から80歳代という状況からの情報提供です。

教室にきている年齢層は、50から60歳代が7割を占めています。若くて30歳代くらいまでで、子育て真っ最中の40歳代の人はいません。野菜を子どもたちに食べさせたいと思っても、親世代にアクションできない状況です。

子どもたちは、とても意欲的で、料理に興味がある子どもが参加するので、話をよく聞きます。ただ、家に帰ると料理をする環境にない場合があるようです。

また、60歳代は、若い時に料理をしておらず、時間ができたことで、料理教室に通い、今、料理を楽しんでいます。また、健康に気を使っている年齢層でもあります。これまで自分の子どもに料理を教えていない人が多く、子どもである30歳代の子育て世代は、時間がなくてできない場合もありますが、料理が分からないこともあります。食のあり方を伝えたい人に伝えられない、紙で教えても受け入れられないところもあるので、いいアクション方法があるといいと思います。

高橋委員： 一つの発想として、子どもを経路として親世代に呼びかける方法があります。小中学生の親世代は、検診も来ないもっとも抜けてしまう世代です。子どもの環境は親が作るもの。ただ、何をどうするかは具体的になっていません。

武田委員： 食生活改善推進員をやっています。検診の結果説明会で、1日に食べる量の食品展示をしています。毎回やっていますが、ある時、80歳代のおばあちゃんが、食品展示を見て、家に帰り、家族に伝え、バランスのいい食事を心がけるようになったといいます。展示をしているだけなのに、実際の食事や健康管理に役立っていることが分かり、生きた教育をしてきたと感じました。

高橋会長： 高齢者に対する食育の支援や地域での共食について、適切なものを見せる、体験することが次につながると思います。

小林毅夫委員： 学校の教員が長かったので、子どもにいかにか栽培体験をさせるか、栄養バランスのよい食事をするかを指導してきたつもりです。同じ世代の高齢者は、孫育と家庭菜園に取り組んでいます。農業生産以外で家庭菜園を活かすのも1つの方法であると考えます。採れた野菜を近所の人と分け合う、共食にどう活かすか、目をつけられないかと思えます。

松田委員： 介護予防、発酵食品の料理教室をしています。子ども食堂もいいですが、町内単位の取り組みがもっとあるといいと思えます。町内の交流が少なくなっている現状で、町内で連携して、高齢者がどのくらいいるか、子どもが一人でご飯を食べているケースがあるかなどを調べることもできます。

私の母が体調を崩し、腸が元気になるレシピや運動を続けた結果、体調が回復しました。つらい状況が続きましたが、元気になり、近所の一人暮らしの方に食事を作って届けています。近所の方との交流も増えました。

また、上越市では「発酵のまち上越」の取り組みを行っています。本来、日本の調味料は発酵しているものが多いですが、最近ではみりん風調味料など、発酵していない調味料も出てきています。料理教室でも、どんな発酵食品を食べたらいいかの質問を受けますが、本来の調味料を使えば、簡単に取り入れられると伝えています。難しいことを言っても続きません。市内にも発酵食品を扱うお店があるので、お店と連携し、市全体が盛り上がるいいと思えます。

高橋会長： 時間が参りましたので、本日の議題については、終了とさせていただきます。

本日出た意見につきましては、事務局で今後の方向性の中で取り入れていただきたいと思えます。

(9) その他（公開）

伊藤係長： 高橋会長ありがとうございました。

それでは、次第の「4 その他」に移ります。本日は、上越教育大学の食育月間の取り組みを野口副会長からご報告いただきます。

野口委員： 上越教育大学では、食育月間に、掲示物などで学生向けの食育に取り組んで3年目になります。今年は、上越市、北陸農政局、上越保健所の協力を得て、ポスター展示を行いました。

他に大学の食育の取り組みとして、食育サークルがあり、こども食堂をはじめとする地域のボランティアへの参加や、昨年度から学生向けの食育だよりを発行しています。将来、保育園や幼稚園、学校の教員となる学生や現役の教員がいることから、積極的な食育活動を行うことが大切だと感じています。

また、食堂の利用推進を目指し、学生、職員、食堂の運営会社とともに、食堂サービスの充実に取り組んでいます。その結果、地域の食材を使ってもらうことや、100円朝食を実施することができました。上越教育大学らしい食堂を目指しています。

本日、上越保健所の依頼で、学生向けアンケートを実施しました。県立看護大学でも実施していると思いますが、食生活についての調査で、新しい取り組みのきっかけとしてほしいと思います。

伊藤係長： 野口副会長、ありがとうございました。

事務局からの連絡です。本日お配りした食育啓発用のクリアファイルは、ご活用いただきたく、ご希望がありましたら、事務局までお申し出ください。食育推進計画の概要版につきましては、完成次第、委員の皆様にお送りいたしますので、ご活用ください。

本日は、長時間に渡り、積極的なご発言と貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。以上で終了といたします。

8 問合せ先

農林水産部農村振興課

TEL：025-526-5111（内線 1812）

E-mail：nouson-shinkou@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。